

事業名

**地域で育む読書活動の推進**

目標

**学校図書館管理システムの地域内各校及び、市立図書館との共通化****1. 取組の視点**

本校区では、地域内の各学校の図書管理システムを同一にして市立図書館の管理システムとも共通化させることにより、子どもたちの読書活動を地域一体となって推進することを目指して事業に取り組んだ。この取組を通し、中学校区内の地域の一体化を図ると共に、地域と学校が「子どもたちの読書活動推進」という目標に共に取り組むことで、「開かれた学校」作りを目指すものでもある。

**2. 取組の概要**

本事業では各学校の担当教職員と地域コーディネーターが協力し、市立図書館や導入先進校の見学など実施計画から取組が始まった。

すでに本校区では、各学校園に図書の学校支援ボランティアが図書室活動の支援に取り組んでおり、新システム導入に伴う諸作業は、この地域のボランティア中心に各学校の PTA・教職員・生徒も参加して実施された。



\*コーディネーターとボランティアによる作業の打ち合わせ  
(平城西中学校)

\*図書委員会の生徒とボランティアによる蔵書登録作業  
(平城西中学校)



\*PTA とボランティアによる蔵書登録作業  
(神功小学校)



多くのボランティアの参加により、短期間で1万3千冊以上の蔵書登録作業を終え、3学期には全校新システムで運用が始まった。また、すでにシステム導入済みの学校ではプロジェクターが導入され視聴覚図書の活用も進み、市立北部図書館の「出前図書館」も実施された。



\*「北部図書館がやってくる」  
市立北部図書館による出前図書館の様子  
(神功小学校)

\*プロジェクターによる  
視聴覚図書の活用  
(右京小学校)



\*ボランティアにより壁面の飾りも季節ごとに変わり、整備が進んだ図書室  
(右京小学校)

**3. 成果と課題**

この取組で、短期間に多くの地域や保護者の人たちが作業に参加したことにより登録ボランティアも増え、各学校の図書室の整備がさらに進んだ。また、児童生徒の図書室への関心も高まり、利用数も増えてきている。このことから本事業の取組を通し、地域と学校が一体となって児童生徒の読書活動が推進され、「開かれた学校」作りが進んだといえるだろう。

また、地域と学校の交流も進み、地域と共に子どもたちを育てる機運がさらに高まったといえる。今後は、学校図書館としてのさらなる効果的な活用・市立図書館との連携・地域への図書室の開放などが課題である。

事業名

## 9年間のメモリアル

目 標

小中の連続した教育実践で郷土奈良を発信できる生徒、自らの体験を発表する力や報告文を作成できる力を育成する

### 1. 取組の視点

本校で実施している小中一貫教育の中で実施している郷土なら科・情報科は、中学校で初めて学習する科目ではなく、小学校5年生から中学校3年生まで連続して取り組んでいる。

郷土なら科・情報科を各教科で培った力を発揮できる総合的な学習の場として位置づけ、小学校で学習した身近な地域の文化財や福祉、産業などについて理解を深めるために、郷土「なら」をテーマとする世界遺産学習、福祉学習、職場体験学習、平和学習などに取り組み、これらの学習を通して実感することができた奈良の魅力をプレゼンテーションやホームページという形式で発信している。



パソコン部がデジタルカメラを箱から出し、1つ1つ名前を付けた。



### 2. 取組の概要

デジタルカメラを24台購入し、実際のグループ活動（5～6人）の中で、生徒自身が映像をとれるようにした。また、デジタルカメラが初めての生徒も多いため、デジタルカメラの使い方、使用時のマナーなどを指導した。

1年生では、姉妹都市である小浜市を訪れた宿泊体験学習でデジタルカメラをグループごとに

持たせ、座禅や塩作り、魚釣りなど、いろいろな体験学習の場面を生徒自らが、写真におさめ、現



小浜での塩作りと「魚釣り・塩作り」体験の発表風景

地の自然や人々にふれ、その土地への理解を深めていった。

特に、この宿泊体験学習では、奈良にはない「海」という自然をしっかりと感じる事ができたという生徒の感想からわかる通り、塩作りや魚釣りなどの体験を楽しく行う生徒のいきいきした様子がうかがえた。また、情報科の時間には、これらの写真を用いて、パワーポイントで発表資料を作成し、保護者・地域への公開授業においてグループごとに発表を行った。非常によい作品ができあがり、たいへん高い評価を受けることができた。生徒自身が撮影したことで、熱心に資料づくりを行う様子が印象的だった。

### 3. 成果と課題

今年度の成果としては、各学年、体験活動の中で、生徒自身がデジタルカメラを使い、現場で写真を取り、その後の発表資料を作成のために、それらをまとめるという一連の流れが定着でき、発信力の向上につながったことは、非常によかった。課題としては、この取組の継続とデジタルカメラでの写真の撮り方と使用時のマナーをさらに向上にさせていきたい。

事業名

## 心の花を咲かせよう

目標

豊かな心の育成と、諸活動に積極的に参加することのできる姿勢を伸張する

### 1. 取組の視点

本校では、子どもたちの心を育むため、道德の時間を中心に、学校でのすべての教育活動を通して、いろいろな取組を行ってきた。

1年生の「郷土なら科」の時間では、福祉学習に取り組む。校内で車いす・アイマスク体験を行い、体の不自由な方、目の見えない方の苦労やその思いを実感する中で、今後の自分の生き方につなげた。その他の授業時間においても、すべての教師が各教科を通して、子どもたちの心を育んでいる。

特に、近年は、課外活動における子どもたちの心を育む取組に力をいれており、その一貫として、学校支援のボランティアの方にご協力をいただき、さまざまな学校の環境整備活動を行ってきた。その中でも、花壇整備活動・地域清掃活動は、地域ボランティアの方の協力を得て、子どもたち自身が計画、実行する貴重な取組となっている。

### 2. 取組の概要

今年度は、生徒会が中心となり、放課後の花壇整備活動、土日の清掃活動において学校支援ボラ



左は花植えのための土作り作業風景



右は図案にそっての花植え作業風景

ンティアの方々・教員のサポートを得て進めていった。花壇清掃活動については、6月と10月に2回行った。生徒会を中心に雄志を募り、花壇のデザインを考えたほか、土作りから花植えまで行



12月4日の神功地区3校園一斉清掃風景

い、パンジーやビオラなど色とりどりの花を植えた。生徒たちは、たいへん熱心に主体的に取り組むことができた。

地域清掃については、12月の神功地区の土曜日の清掃活動に参加するという形で行った。生徒の有志は、約120名で、地域の方々、保護者の方々もたくさん参加し、主に、中学校・小学校・幼稚園周辺の一斉清掃を行った。地域や保護者の方々から、たくさんの生徒が集まり、熱心に清掃する様子がたいへんすばらしいというご意見もいただいた。

### 3. 成果と課題

活動に参加した生徒から、「学校や地域がきれいになり、とてもよかった。」「他の活動もして、自分たちの学校や地域をよりよいものにした。」「など、たくさんの声を聞くことができた。生徒の中に、学校に対する愛着や自分たちで活動するという主体性が少しずつ芽生えてきていることが感じられた。

今後は、この活動を続けていくとともに、さらに生徒の有志を増やし、心を育んでいけるようにしていきたい。



事業名

# 「なら」 大好き右京っ子

目 標

奈良の伝統文化や芸能に触れることで奈良をよく知り、情操豊かな心と芸術的感性を養い、聞く態度やマナーを学ぶ

## 1. 取組の視点

本校区は約40年前から平城ニュータウンとして開発された地域である。入居された方は、「子どもたちにふるさとを」との願いを込めて、住みよい街づくりのために長年努力されてきた。

一方、ベッドタウンとしての開発のため、核家族が多く、家族以外の大人と触れ合う機会があまりない。また、本校区には平城京とも関係が深いと考えられる古墳や遺跡もたくさんあるが、子どもたちの奈良に対する関心は高いとは言えない。古都奈良に住んでいながら、奈良の貴重な文化財や伝統芸能を知らないというのは非常に残念なことである。

そこで、地域の方との触れ合いも含めた、伝統芸能鑑賞会を開催することとした。



## 2. 取組の概要

校区には、奈良の伝統文化や芸能に詳しい方もいる。また、県外から来られた方の中には、現在も出身地域の伝統芸能に携わっておられる方もある。また、幸いなことに本校区には本格的なホールがある。そこで、それを利用して伝統芸能などを演じていただき鑑賞することができれば、家族以外の人と交流を深めることができ、公共施設を利用するのでマナーを守ることや、人の話を聞く態度を学ばせることもできると考えた。

具体的には平成23年1月15日(土)と1月22日(土)の2日間、奈良市北部会館市民文化ホールをお借りして、奈良の伝統芸能である狂言を子どもが演じる「子ども狂言」、奈良県や奈良市の無形民俗文化財にも指定され、全国的にも貴重な芸能である「祭文語り」をはじめ、箏や尺八の



演奏、琉球舞踊、三線演奏など古くから受け継がれている貴重な伝統芸能を鑑賞した。また、地域を知るために平城ニュータウン開発当時の貴重なスライドを見せていただいた。

## 3. 成果と課題

今回の催しで、地域や奈良についての興味や関心が高まり、地域に愛着や誇りを持ち、奈良を愛し、豊かな心を持った子どもの育成につながったと感じた。

奈良をはじめとする伝統芸能を鑑賞することで、日本の伝統を守り、伝えていくことの大切さを再確認できた。

公共施設を利用できたので、空調・照明・音響など快適な環境で鑑賞することができ、子ども達にも聞く態度を学ばせることができた。

大人に比べて子どもの数が少なかったのが残念だった。地域・保護者への広報の仕方を工夫する必要があると感じた。

事業名

**夢を育む子どもの育成**

目標

**“自分がすき、友達がすき、この町がすき”といえる神功っ子を地域と学校が連携協力し育てていく****1. 取組の視点**

子どもたちが、“夢を育む”ために必要な「確かな学力」や“心を耕す”ための教育活動を充実させるとともに、学校環境整備（学校内の自然環境、図書室の環境、図書読み聞かせ等）の充実を図る。また、平成20年度より小中一貫教育パイロット校として取り組んでいる。小中学校の滑らかな接続とともに、保幼小の連携交流をより豊かにすることにも力を入れてきた。その取組に対して、学校支援地域本部事業において様々な支援していただいていた。本年度以降もその事業を引き継ぎ、より「開かれた学校づくり」ととともに「地域の教育力」を育む取組にしていきたい。

**2. 取組の概要**

## ○学校内環境整備

## ①学校図書館整備

通年、図書室の図書の整理、環境整備を実施した。「地域で決める学校予算」の地域事業で図書貸出ソフトが、平城西中校区で統一されたの



を受け、パソコンへの入力作業を実施。それに伴う蔵書整理を実施した。学校支援ボランティアとPTAが協力して行うこともできた。

## ②校庭の環境整備

木の剪定、花壇の整備、草刈り、校舎内清掃、運動場側溝清掃等

## ○学年ごとに絵本の読み聞かせと図書の充実

ボランティアグループ「おはなしクレヨン」が活動。大型絵本が購入でき楽しく活用できた。

## ○PTAとの共催で教育講演会

保護者と校区の方々を対象に向出佳司教授を

招聘し「元気の出る子育て ～親の目、子の芽、地域の眼～」の演題で講演会を開催した。



## ○ゲストティーチャーの招聘

奈良筆づくり体験(4年)

ケナフで紙漉体験(4年)

平城ニュータウンの歴史(6年)

短い詩を作ろう(6年)

## ○演奏会

馬頭琴とホーミーを生で聴こう(2・3)

**3. 成果と課題**

○学校教育環境整備（学校内の自然環境、図書室の環境、図書読み聞かせ等）が充実した。

○学校ホームページで目標及び計画を公開。学校便りで活動の紹介のコーナーを設けた。PTA代表委員会や地域の会合でも保護者だけでなく、地域の方々に事業のことを紹介し、進行状況などについて報告できた。

○児童が様々な地域の方と出会うことが出来、校区のすばらしさを感じるようになった。

○学校教職員がより負担に思う事業にならないように考えたが、校務分掌にも反映することも含め、地域とともに活動していくことが課題になった。



○学校支援ボランティアの募集に工夫が必要で、メンバーが不足しているグループもある。

事業名

**わくわく きらきら 右京っ子**

目標

**進んで人とかわかり、自分の思いや考えを言葉で伝え合う子ども  
もの育成奈良の世界遺産を知り、奈良大好きな子どもの育成****1. 取組の視点**

園児のほとんどが核家族で家族以外の大人や異年齢の子どもと触れ合う経験が少ないように思う。そこで地域の方々の協力を得て、家庭ではなかなかできないような多様な活動を経験することで、生活の幅を広げるとともに人とかかわり方や相手を思いやる心を育て、自分の思いを言葉で伝え合えるたくましい子どもになってほしいと考えた。また、活動経験の一つとして世界遺産学習を積極的に取り入れ、奈良に生まれ育ったことに喜びや誇りをもち、自信をもって奈良を語れる子どもの育成を願い取組を進めた。

**2. 取組の概要**

地域の方々と共に活動する場所を設け、様々な出会いを楽しみながら人とかわかる力や態度を身に付けたり、おはなし会やわらべうた教室、園外保育を通して、奈良の世界遺産を学んだりした。



また、柔道では受け身などの技のほかに、礼儀作法や不審者対応の護身術、人の話を静かに聞くことの大切さを指導していただいた。

わらべうた教室では、奈良の世界遺産にまつわる本や蓮の花・神楽鈴などの現物を使って指導していただき、園児は実際に神楽鈴を持って鳴らす経験をしました。また、園では奈良の世界遺産マップを作成して保護者にも見える場所に掲示し、遠足や園外保育に出かけた時にはシールを貼る

などスタンプラリー形式で全園児が奈良の世界遺産のある場所がわかるような環境構成に努めた。



12月には地域公開をし、日頃、園児が柔道やわらべうた遊びに取り組んでいる様子を地域の方々に参観してもらった。

おはなし広場では、メンバーの方が手作り絵本や素話、大型紙芝居など毎回園児が楽しんで聞けるように趣向を凝らし進めてくださった。また、おはなし会の協力で“おはなしキャラバン隊”の訪問を受け、たくさんの人や絵本に出会うことができた。

このほかに、万年青年クラブの方々と秋祭りを行ったり、人形劇を鑑賞したりした。

**3. 成果と課題**

核家族で暮らす園児が多い中、様々な人との触れ合い心を通わす経験は、人とかわかる楽しさや親しみを感じ安心して自分を表出し、言葉で伝え合う力が育ってきた。園児たちは、わらべうた遊びやお話を通して奈良の世界遺産に触れ知ることができた。

また、本物に出会った時の感動体験を友達や先生、家族に伝えることができた。柔道では楽しみながら礼儀作法、聞く力、専門性を身に付けることができた。事業内容を振り返ると、参観型が多かったので参加型の取組を検討していきたい。



事業名

# わくわくどきどき神功っ子

目 標

身近な環境や様々な人とかかわり、体験を通して感動を共有し、豊かな心を育む

## 1. 取組の視点

核家族化や周りの環境の変化等により、幼児は様々な人や自然とのかかわり、心おどる体験が少なくなっている。子どもの発達にとって豊かな心を育むために、絵本の読み聞かせや身近な自然環境、様々な人とかかわり等、多様な経験や体験を共有していくことで、心身共に健康でたくましく生活する幼児を育成していきたい。

## 2. 取組の概要

幼児が心豊かに生活でき、「幼稚園が楽しい！」

と感じられるよう、園環境の見直しを行った。

保護者や地域の方、子どもたちと一緒にレン



ガや土を運んで花壇や畑をつくった。園庭には四季折々の花が咲き、生活にうるおいがもてるようになってきている。また、ふれあい菜園では、年間栽培計画をもとに親子栽培をすることで、生長を楽しみに世話をしたり、地域の方の知恵や工夫を学んだりして、触れ合いを楽しむようになってきている。



絵本の部屋の環境、読み聞かせの充実を図り、



玄関ホールに「えほんのひろば」の設置を行った。絵本の読み聞かせや絵本貸出も充実し、絵本の部屋では子

ども達がゆったりとした気持ちで絵本を見たり、お家の方と一緒に楽しむ姿も見られた。また、園



庭開放の時間に、未就園児も大型絵本や紙芝居等おはなしに触れる機会をもつことができた。

地域の方や保護者

との交流を深めるために、親子ふれあい体操、ふれあいコンサート、能楽鑑賞を実施した。いずれも親子や地域の方との触れ合いが楽しめるような内容で、全身を使って体を動かしたり、楽器演奏を聴いたり、リズムに合わせて歌ったり踊ったりして楽しむことができた。能楽は、奈良から生まれて全国に広がった日本の音楽（無形文化財として指定された）であることを、子ども達にわかりやすく説明していただき、「羽衣」を演じてくださった。



## 3. 成果と課題

身近な環境や様々な人と触れ合う中で、感動を共有し、感謝する心やコミュニケーション能力も養われ、心豊かに園生活を送ることができた。

園だより等で取組の概要を知らせ、活動の様子を写真で掲示したり、園ホームページに掲載するなど広報することで、園教育への関心も高まり、事業を理解してもらえることにつながった。

また、保護者アンケートでは、「感動を共にすることができた」「地域の方と楽しむことができた」等、多くの感想をいただいた。今度も、一人一人の幼児が心身共に健康でたくましく、心豊かに生活していけるように、園・家庭・地域と三位一体で幼児の育成を図り、地域との対話や開かれた園環境の充実を図っていきたい。